



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
第5号
平成30年11月14日発行

◇ 管内各校の勤務の適正化に向けた取組より ◇

このたよりが発行される頃には、今年度の勤務状況調査が始まっていると思います。お一人お一人には11月6日～12日までの調査票への回答、担当の方には11月1日～30日までの対象職員の勤務時間の集計をお願いしているところです。皆さんは、調査の回答をしながら自校の取組の成果を実感していらっしゃいますか。

今年度、学校経営人事管理訪問64校を計画し、残すところ数校となりました。訪問では、岐阜教育事務所の重点である「勤務の適正化」についてもお話を聞かせていただいておりますが、どの学校も実態に応じた工夫ある取組を進めてくださっています。以下に、具体的な取組について紹介します。

勤務の適正化の取組は大きく二つに分けられます。一つは「教職員の意識改革」もう一つは「業務の削減・業務にかかる時間の短縮」です。

【教職員の意識改革に関わる取組】

- ・タイムカードによる正確な勤務時間の把握
- ・早く家庭に帰る日の設定（全職員一斉の設定、学年ごとに設定）や退校時刻宣言（全職員の退校時刻が分かるようなプレートの掲示等）
- ・時間外勤務の個人目標の設定や管理職による指導・助言（退校時間、時間外勤務時間の個人カード作成等）
- ・時間外勤務の届け出制（決められた時刻以降の残留届）

【業務の削減・業務にかかる時間の短縮】

- ・職員会を2か月に1回に削減、各種会議に参加するメンバーの縮小
- ・会議の時間設定や資料の簡略化、事前配布
- ・外部からの電話の留守番電話対応（放課後）
- ・家庭訪問の簡略化（家の位置確認程度にする）
- ・掲示物の簡略化・焦点化、児童生徒作品等への朱筆の廃止（価値付けは朝・帰りの会で行う）
- ・部活動休養日の設定、保護者クラブの実施、複数顧問制による週休日等の確保
- ・地域行事への参加者の見直し

これまで取り組んできたことをやめることは難しいことです。「子供のため」と思えばこそ、続けてきたことだと思います。そこに、新たな「子供のための・・・」が加わると取り組まざるを得ないことがさらに増えていきます。

しかし、大切なことは、健康で、笑顔で子供たちの前に立つことです。そのためには「本当に子供たちのためになること」を絞り込み、「例年通り」を見直していく必要があります。時には、時間が必要な仕事もあるでしょう。そういった場合でも、見通しをもち、計画的に、メリハリのある勤務ができるようにすることが必要です。

明日も子供たちは皆さんを待っています。全ての教職員が、笑顔で子供たちの待つ学校へ向かうことができるよう、皆で知恵を出し合って、働きやすい職場づくりをしていきたいものです。

きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

新しい 学習指導要領 見据えた実践を！

理科編



中学校第3学年「ダニエル電池」を扱う授業を参観しました。ご存じのとおり、現行学習指導要領においては、「ボルタ電池」を扱っていますが、平成33年度から全面実施の新学習指導要領においては、「ダニエル電池」を扱うことになります。

「ボルタ電池」の学習を確実に行った後に、発展的な学習として「ダニエル電池」の学習を位置付け、生徒が、両者の電池の共通点と相違点を見いだすことをねらった授業でした。理科の授業においては、生徒がねらいに到達するためには、観察、実験を通して、確かな事実を獲得できることが必要不可欠であり、そのためには、教師による実験器具等の教材開発や教材研究は大変重要となります。このことは、理科教師の醍醐味とも言えます。

今回の授業では、市販の「ダニエル電池」教材を参考にされ、安価で安全、かつ実用的な自作教材を開発されていらっしゃいました。新学習指導要領を見据えた、先行的な実践を意図的・計画的に行っていくことの重要性を感じることでできる授業でした。

教師の教材開発 への情熱

社会科編

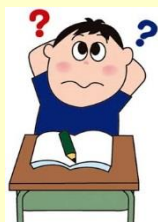


小学校第4学年「自然災害から人々の暮らしを守る活動」の授業を参観しました。現行学習指導要領においては、第3学年及び第4学年の内容(4)で取り扱いますが、取り上げる災害は「火災、風水害、地震などの中から1つを選択する」こととなっており、実践として、火災が比較的多く取り上げられています。新学習指導要領では、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害等の中から、過去に県内で発生したものを選択して」取り上げ、関係機関等の協力という視点に着目して、災害から人々を守る活動の働きを考えることとなります。

教科書や副読本のない中で先行実施となりましたが、教師は、単元を通して、地域の調査活動の場を設けたり、地域人材を積極的に活用したりしていました。児童は、自分たちの命を守る様々な機関の働きに気付き、地域のためにできることを真剣に話し合いました。地域に何度も足を運び、地域に対する理解を深めようとする教師の姿勢が、魅力ある教材開発につながり、児童の自分事の学びを生み出した実践でした。

指導改善資料を 活用して 英語を聞き取る 力を育てる

外国語科編



中学校第2学年「Let's Listen 4 空港・機内のアナウンス」の授業を参観しました。仲間とやり取りした国に、自分が出かけるという場面設定で、空港のアナウンスを正確に聞き取ることをねらいとする活動でした。

導入では、オーセンティック教材として空港のアナウンスを映像資料で視聴し、生徒の課題意識を高めた上で、便名や行先等の聞き手が必要な情報を英問英答で確認しました。スクリプトの理解にとどまらず、アウトプットも「聞くこと」の能力の一つとして、教師が What country do you want to go? と問いかけて、生徒自身の考えまで引き出しました。その後、4人1組の小集団で、導入とは異なる場面を設定し、一人がチケットの情報をアナウンスし、聞き手が自分のチケットかどうかを聞き取る活動を行いました。評価では、教師が準備した特別なチケットを代表生徒がアナウンスし、生徒全員が本時のねらいを達成することができたか確認し、価値付けました。

岐阜県教育委員会が今年度作成した指導改善資料を活用し、「活動」と「トレーニング」を通して、英語を聞き取る力を育てる実践でした。